

# 農政課が実施している畜産悪臭対策の概要

## 1. 畜産悪臭に係る主な業務

- 畜産農家への啓発（年1、2回）  
内容：堆肥散布時の注意事項（完熟堆肥の施用、スラリーインジェクターの使用、速やかな耕起 他）
- 苦情対応（現場確認、農家への対応要請・注意喚起）
- 農家を実施する悪臭対策への助言・提案及び進捗管理
- 悪臭対策に係る専門家派遣の手配
- 現場の立ち入り調査
- 悪臭対策技術の情報収集
- 臭気指数測定（環境課実施）により、規制基準を超過した農家に対する助言・提案
- 臭気指数規制により、農家が作成する改善計画書への助言・提案及び進捗管理協力

## 2. 生活圏で悪臭が発生する主な要因

- (1) 糞尿処理の過程で悪臭物質の発生量が多い  
糞尿処理機器の故障や作業の遅滞などにより糞尿処理が滞り、嫌気発酵（腐敗）が進む（図1）。
- (2) 物質としての性質  
畜産臭気の原因物質は、空気より重く、水に溶けにくい物質が多いため、臭気が拡散しにくい（薄まりにくい）（図2）。
- (3) 気象・地形条件  
気温が高いと嫌気発酵（腐敗）が進む。また、特に夕方以降は地表付近の大気が安定することにより、臭気が拡散しにくくなる（薄まりにくくなる）。

## 3. 臭気対策

- (1) 基本的な考え方  
畜産悪臭は、一般的に様々な悪臭物質が混ざった複合臭であること、直接の原因の特定が難しいことなどから、**特効薬的な対策が存在しない場合が多い**。よって、さまざまな対策を組み合わせ、積み上げることで総合的な悪臭発生量を抑えること必要がある。このことにより、苦情が発生する範囲を抑えこむことが可能となる（表1）。
- (2) 対策の基本方針：悪臭物質の発生と流出を抑制
  - 悪臭物質の発生を抑制  
**嫌気発酵（腐敗）を抑制し、好気発酵を促す**
    - ・畜舎内に糞尿を溜めない  
糞尿を畜舎の外（又は浄化槽）に掻きだす頻度の向上
    - ・浄化槽の改修及び運用の見直し  
処理能力向上、負荷軽減
    - ・臭気低減資材の投入
  - 施設の密閉度を高め、極力悪臭が流れ出さないようにする。

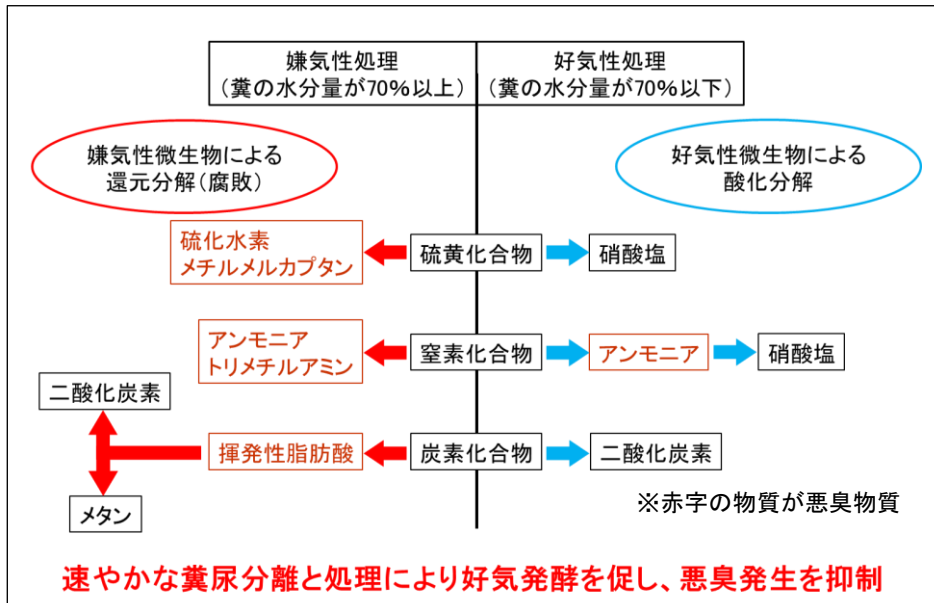


図1 好気発酵と嫌気発酵による発生する物質の違い

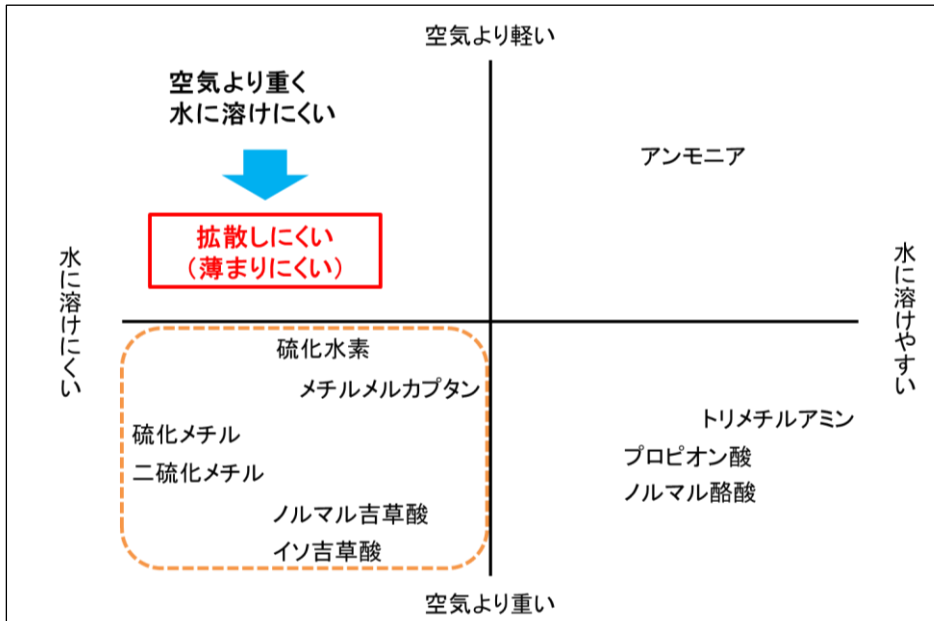


図2 畜産由来の悪臭物質の性質

表1 TOER (総臭気排出強度) と臭気の影響範囲との関係

TOER (m3N/min)	悪臭公害の起こり具合	臭気最大到達距離	苦情範囲
10の4乗 以下	特殊な場合以外、起こらない	-	-
10の5乗~6乗	小規模の影響ありうる	1~2km	500m以内
10の7乗~8乗	小・中規模の影響ありうる	2~4km	1km以内
10の9乗~10乗	大規模の影響あり	10km以内	2~3km
10の11乗~12乗	稀なほど最大の発生源	数10km	4~6km

出典：岩崎好陽(2013). 3訂 臭気の嗅覚測定法 公益社団法人におい・かおり環境協会 pp.3 2-3